

<今回のテーマ>

夏の感染症を防ごう

いよいよ夏本番です。水遊びに夏祭りなど、たくさんの楽しいイベントが待っています。しかし、真夏でも感染症は発生しています。しっかり対策をして、夏を元気に楽しみましょう。



夏の三大感染症

手足口病



症状：手のひらや足の裏、口の中などに2~3mmの水ぶくれができます。熱は出ないか、出ても37~38℃くらいです。水ぶくれにかゆみや痛みはありませんが、口の中の水ぶくれが破れた場合は、飲食物を飲み込むと痛むため、水分が取りにくくなります。水ぶくれは3~7日で自然消失します。
原因：ウイルス感染症ですが、原因となるウイルスが複数あり、何度もかかる可能性があります。
時期：5月頃から増加し、7~8月に流行のピークを迎えます。潜伏期間は3~5日間程度です。
年齢：主に5歳以下の乳幼児がかかり、2歳以下が半数を占めます。

ヘルパンギーナ

症状：突然の高熱(39℃以上)と口の奥に1~2mmの水ぶくれができます。熱は2~4日で下がります。口の中の水ぶくれが破れた場合は、飲食物を飲み込むと痛むため、水分が取りにくくなります。水ぶくれは約1週間で自然消失します。
原因：ウイルス感染症ですが、原因となるウイルスが複数あり、何度もかかる可能性があります。
時期：5月頃から増加し、7~8月に流行のピークを迎えます。潜伏期間は2~4日間程度です。
年齢：主に5歳以下の乳幼児がかかり、1歳代が最も多いです。



プール熱(咽頭結膜炎)



症状：のどの痛み、目の充血、高熱が特徴です。頭痛、食欲不振、全身のだるさなどの症状もあります。39~40℃の高熱と37~38℃の微熱を行き来する状態が4~5日程度続きます。
原因：アデノウイルスによる感染症ですが、原因となるアデノウイルスが複数あり、何度もかかる可能性があります。
時期：6月頃から増加し、7~8月に流行のピークを迎えます。
年齢：5歳以下以下の乳幼児がかかります。

治療方法

- *有効な薬はなく、症状を和らげる治療(対症療法)となります。
- *脱水症状を防ぐために、水分をこまめにとりましょう。刺激の少ない柔らかい食べ物を心がけましょう。

予防方法

- *タオルの共有はさける。
- *手洗い・うがいを丁寧に行う。
- *おむつの取扱い時は使い捨て手袋を使用し、手洗いを行う。(治癒後2~4週間は便からウイルスが排泄されます。)

これらの徹底が重要!

油断大敵! 夏にも感染性胃腸炎



『ウイルスによる感染性胃腸炎=冬』とっていませんか? 実は、夏にもウイルスによる感染性胃腸炎が発生しています。冬に比べて流行は少ないですが、夏でも感染することがあります。6月にもノロウイルスの報告がありました。



「もうノロウイルスの時期じゃないから大丈夫」と油断せずに、感染拡大対策をすることが大切です。冬と同じように手洗いを徹底して、普段からおむつ交換時の手袋使用も必要です。嘔吐セットの準備も忘れずに!